

第 8 回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和5年9月13日（水）

開催時間 午後 3 時 30 分から午後 4 時 35 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 降 籬 友 宏
教育長職務代理者 小 澤 幸 子
教育長職務代理者 松 坂 浩 志
委 員 長 澤 重 俊、橋 本 幸 子、梶 浦 陽

出席職員 教 育 次 長 河 野 公 紀 総 務 課
教 育 監 市 川 敏 也 総 括 課 長 補 佐 齊 藤 七 二
教 育 監 初 鹿 野 仁 課 長 補 佐 河 野 敏 三
次長（総務課長） 小 林 洋 一 主 査 小 池 涼 子
教育企画室長 岩 出 修 司 主 事 中 野 友 嗣
福利給与課長 永 井 研 一 教 育 企 画 室
学校施設課長 白 須 慎 一 働 き 方 改 革 推 進 監 伊 藤 宏 紀
義務教育課長 小 池 孝 二 室 長 補 佐 三 枝 徹
高校教育課長 萱 沼 恵 光 副 主 査 渡 邊 政 司
特別支援教育・児童 鷹 野 美 香 学 校 施 設 課
生徒支援課長 平 賀 貴 久 子 総 括 課 長 補 佐 功 刀 美 奈 子
生涯学習課長 山 田 芳 樹 主 事 中 村 雅 幸
保健体育課長 副 主 幹 ・ 指 導 主 事 関 博 史

傍 聴 人 0 名

報 道 1 名

会 議 要 旨

〔 教育長開会宣言 〕

議案第17号及び第18号「県議会に提出する予定案件について」と、議案第19号「大村智自然科学賞選考委員会委員の委嘱・任命について」は、今後、知事又は議会など関係機関との協議等を必要とする事項及び個人情報に関する事項である旨教育長から発言があり、出席委員全員が了承のうえ非公開とした。

1 議 案

第 15 号 令和4年度教育委員会の活動状況報告書について

〔説明〕 教育企画室

【原案どおり決定】

第 16 号 「山梨県教育振興基本計画」の目標となる指標の進捗状況について

〔説明〕 教育企画室

長 澤 委 員 指標54項目のうち、部署別に見るとどんな分布になりますか。義務教育課で何件とかを知りたいのですが。全体的に義務教育課が多いなという気がしますが、部署間のばらつきも考えたほうがいいと思います。

- 岩出室長 計画の指標ということで、多少、課ごとのばらつきはあるかと思いますが。現在策定中の教育振興基本計画においては、指標の立て方や目標値について工夫していく必要があると考えております。
- 長澤委員 課ごとの指標は最大3つぐらいがいいのではないかと思います。また、「郷土学習コンクール参加校の割合」とか、「道德教育の授業公開をしている学校の割合」など、この指標が果たして適切かという項目もいくつかあって、これをやったら本当に良くなるという指標や目標値にしないと、学校や子供たちも取り組む意欲が沸かないと思います。
- 教育長 ありがとうございます。
道德教育については、この取組をやったらどれだけ道德心が高まったかという指標の設定はなかなか難しいものがあります。
- 長澤委員 苦肉の策ということはわかりますけどね。
- 教育長 苦肉の策であっても、この分野については研究をしていく必要があると考えております。
- 長澤委員 この指標は各課から上がってくるのですか、それともこの指標にしてくださいと各課に伝えているのですか。
- 岩出室長 基本的には各課で作成します。その指標を実際に評価表に組み込んでいくについては、別途検討していきます。
- 教育長 指標については、総合計画に載っているものは教育振興基本計画でも取り上げるといふ考え方になるのでしょうか。
- 岩出室長 はい。
- 教育長 加えて教育振興基本計画独自の指標も設定しているわけですが、それぞれの課で事業を行う際には指標を作らないといけないというルールを設けているのですか。
- 岩出室長 必ずしも事業をやるからこの指標を作らなければならないということではありませんが、事業を行う際には何を目標としてやっているのか、その目標に向けてどういうことをするべきかという検討は必要だと考えております。
- 教育長 21世紀に入り、国や地方自治体では、事業に対してどのような成果が出ているのかという政策評価についての説明責任が求められてきたことが大きな行政の潮流としてあります。それぞれの事業の取組について、その成果を判断するための手段として指標を示し、目標値を設定し、数値で評価をするという流れになっています。
今回の指標については、過去の推移を把握していく必要性から変えていないものの中にはありました。
しかし今回は、新しい教育振興基本計画を策定する一つの節目の年でありますから、ここで指標の考え方を切り替えるなど新しい指標を取り入れる良い機会だと思っています。

長澤委員 例えば優れた才能・個性を伸ばす教育の推進として、「科学の甲子園ジュニアに参加した中学校延べ数」という指標がありますが、これが本当にこの施策の本丸かなという気がしました。この指標を評価すれば、本当に個性を伸ばす教育の推進ができたと言えるのだろうか。本当にこの指標・評価をしたら変わるだろうという本気度を知りたいですし、評価が計りにくいのであれば、そこをどう工夫するかという議論であってほしいです。延べ数を出してもという感じがします。

教育長 延べ数というよりかは、参加した子供たちの変化というところで見るということでしょうか。

長澤委員 そうですね。参加した子供たちの様子から、どれだけこの分野で進んだのかを計ることができればと思っています。

教育長 この分野でどれだけ進んだのかというのは様々な見方があり、評価がなかなか難しいのかもしれませんが、科学の甲子園ジュニアというもの自体も割とレベルが高い大会なので、このような大会に参加すること自体が個性を伸ばす教育の機会に触れたと考えることができるのかもしれませんが。

岩出室長 先ほどお話がありました課ごとの指標の数ですが、一番多い課が12、一番少ない課が3となっており、確かに少し開きがあります。

長澤委員 12は多いですね。

教育長 12はどこですか。

岩出室長 保健体育課です。

教育長 そうなんですね。義務教育課や高校教育課がたくさんあるのかと思いました。

岩出室長 義務教育課が9、高校教育課が5です。

教育長 ちなみに一番少ない課はどこですか。

岩出室長 教育企画室です。

教育長 他にいかがでしょうか。

松坂委員 この結果を見ていると、目標に対しての指標は、おそらく各課がこの目標に対してこれをやりますと手を挙げて載せているのではなく、教育振興基本計画と照らし合わせてこれも当てはまる、あれも当てはまるというふうに整理したものを載せているのではないかと思います。また、各学校によっても認識の差がすごくあって、指標に対して優先順位が高い学校と低い学校があるからこのような結果になるのではないかと思います。

- 岩出室長 確かに、各課の所管業務・関係する事業などを教育振興基本計画の中で分類したうえで、そこで数値化ができるものを指標としてはめていったことは否めない部分であります。
委員がおっしゃるように、それぞれの学校における取組姿勢に差があることは確かで、それがこういう結果になっているということも承知しております。取組の実施については各学校への働きかけを行っているのですが、それがうまく働いていない部分があるのだろうと思っています。
- 松坂委員 今後もその辺は議論していく必要があるかと思えます。
また、事務局でも各学校に、これについては最低限やっていきましょうなど働きかけを行い、学校間のギャップを少しでも埋めていくような努力をしないと、また同じような結果になり、あまり建設的な議論ができなくなるという状況になってしまうことが考えられます。
- 長澤委員 結果の管理ではあまり意味がないと思えます。
- 小澤委員 学校側が同じ強度で全部これをやらなくてはならないというのは、ちょっと現実的には難しそうですね。
- 松坂委員 多くの項目があり現場は大変だと思います。だから次回はもっと項目を減らしてシンプルにしたり、重点管理項目を作ったりすればフォローもしやすいのではないのでしょうか。
- 教育長 そこは確かに多様な意見があるかと思えます。もちろん良い指標結果になることを目指していくべきだと思うのですが、一方で何らかの要因で到達できなかったところについては、そこから改善の糸口を見つけるという要素もあると思えますので、最初にご指摘いただいたように何のためにこの評価指標を行うのかということ意識していく必要があると思えます。
- 長澤委員 そういう意味では分析が大事であり、特に学校別に分析しないと次につながらないと思えます。数値結果で○×をただけではなく、なぜこうなったのか、例えば地域別だとどうなのかなどを分析していかないと進歩がないと思えます。
- 橋本委員 この指標を作成した時はコロナはきっと想像できていなかったと思えます。達成状況がかなりコロナに影響されていて、評価が厳しいなという項目がたくさんあるのですが、コロナのような不測の事態が起きたときに、最初に作った指標でそのまま評価をしていくのか、それとも途中で指標を見直して新たに組み込んでいくのか検討する必要があると感じました。
- 教育長 コロナの状況を受けて県の総合計画は一部改定をいたしました。それを受け、教育振興基本計画も本文や事業のところでは付け加えた項目があります。ただ、それぞれの事業の目標設定を再設定する見直しまでは行っておらず、今回は平成30年度ないし平成29年度を基準値とした数字をそのまま残して、コロナ禍の中でどこまでできたのかということの評価をさせていただきました。
今後また同じような状況になったときにどのように対応していくかについては、今、橋本委員がおっしゃられたように検討していかないといけない視点だと思います。

長澤委員 先ほどの各課の指標数の件で、保健体育課が一番多いとのことでしたが、平日土日や男子女子でそれぞれ項目立てをしているので、実質はそんなに多くないですね。結局、担当部署がどこであろうと学校側にはすべての項目が下りていくのでやはり50以上の項目は多すぎると思います。また、NO.38の「月あたり正規の勤務時間を80時間以上超過する教育職員の割合」、これは大事な指標だと思います。この項目は早急に取り組まなければならないものであり、数あるうちの1つだと埋もれてしまうので、意識して取り組んでいただくために重点項目として各学校に示すといった方法も検討していただきたいとします。

小澤委員 重み付けですね。

教育長 重み付けの判断として、総合計画のほうでも取り上げているかどうかは1つの見方なのかもしれません。この働き方改革のところに関しては、県の働き方改革の取組方針でも目標設定としているので重み付けのメッセージは出ていると思いますが、長澤委員がおっしゃるようにその意識付けについても考えていく必要があると思います。

【原案どおり決定】

第17号 県議会に提出する予定案件について

〔説明〕 総務課
(非公開：会議の要旨)

県議会に提出する予定案件について、令和5年度9月補正予算の概要の説明を受け、全委員の賛同により原案どおり決定された。

【原案どおり決定】

第18号 県議会に提出する予定案件について

〔説明〕 学校施設課
(非公開：会議の要旨)

県議会に提出する予定案件について、動産購入の概要説明を受け、全委員の賛同により原案どおり決定された。

【原案どおり決定】

第19号 大村智自然科学賞選考委員会委員の委嘱・任命について

〔説明〕 高校教育課
(非公開：会議の要旨)

大村智自然科学賞選考委員会委員の委嘱・任命について、委員会の設置目的や委員の要件等に関する説明、委嘱・任命する委員名簿の提示があり、全委員の賛同により原案どおり決定された。

【原案どおり決定】

2 報告事項 な し

3 その他報告 な し

[教育長閉会宣言]

以 上